



Subaru

男声合唱団 ニュース№422 '13. 7. 6

## 合発曲をみっちりレッスン

7月5日

□ 7月5日(金)の定例レッスンは、奥村さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングに始まり、静さんのピアノ、伊藤さんの指揮で「母なるヴォルガを下りて」本並先生の指揮で「音戸の舟唄」を、みっちり、厳しくレッスンしました。7月14日の「大阪のうたごえ合唱発表会」へ向けて歌唱力がますます向上してきました(つもり?)。参加は全34名でした。



□「2013原水爆禁止国民平和大行進」は栗栖さん他多数名が、あちこちのコースで歩きます。高槻～吹田コース(7/6)は毎年奥村さんリードの「うたごえ行進」です。祈る「好天」！

## ♪ 八木節 ♪

投稿 乾さん

□手持ちの「日本民謡辞典」'72年東京堂出版から。

栃木県八木地方(足利市御厨)を中心に栃木、群馬、埼玉県各地でうたわれる盆踊り唄。三県の境が寄り合うあたりにさかんにうたわれる口説形式の盆踊り唄である。元来、群馬県の木崎宿に越後から稼ぎに来ていた飯盛り女がうたつたという(越後口説)一名(新保広大寺くずし)が盆踊り唄となったものというが、木崎宿とともに例幣使街道\*の一駅ある栃木県の八木宿にも移入された。したがって当時は(木崎節)とよばれていたが、これを八木宿に近い山辺村字堀込の渡辺源太郎(後に堀込源

## 八木節と例幣使街道

\*例幣使街道は上州(群馬県)倉賀野宿から野州(栃木県)柳木宿まで16宿を言う



※「日光例幣使街道」とは徳川家康の没後、東照宮に幣帛を奉獻するための勅使が通った道をいう。

太)という美声の持ち主がうたい広めたもので(八木節)とか(源太節)と呼ばれ、全国的な流行をみた。かつては(横樽音頭)であったが、現在では樽を縦にして叩きながらうたう(縦樽音頭)が多い。レパートリーは"国定忠治"のほか"鈴木主水"などが有名である。結局(八木節)は群馬県に生まれ、栃木県の民謡となった形だが、実際には群馬県東南部と埼玉県北部でさかんにうたわれている。

□ YouTubeで八木節を探ると「八木節 国定忠治 上下 オリエント盤 堀込源太」が見つかった。本家本元の堀込源太のレコードである。寄せられたコメントによると大正8年から昭和4年3月までの間の録音で、マイクを使わないラッパ吹き込みだったそうだ。そのせいか精一杯の大声でうたっているのも楽しいし、間奏のお囃子の間にしわぶきが入っていたりするのもより楽しい。ぜひ聞いてみてほしいものだ。

ちなみに、ハ木節は音頭取りがうたっている間は伴奏は無い。その代り間奏はそれはそれは賑やかなお囃子が入る。そのためか昔から地元の方の歌を聞くと、時として音痴に聞こえる面白い唄である。



初代 堀米源太

2013年7月8日

岡邑さんの  
「私とこの歌」  
うたごえ新聞に  
載りました